

## 令和4(2022)年度 下都賀地区教育相談連絡会第2回研修会を開催しました

日 時：令和4(2022)年10月13日(木)

会 場：小山市桑市民交流センター「マルベリー館」 2階会議室

参加者：・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者

- ・下都賀地区各市町適応指導教室担当者
- ・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者
- ・県南健康福祉センター福祉指導課・健康支援課担当者
- ・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員
- ・下都賀地区小・中・義務教育学校教職員

### 1 研修内容について

- 目的 (1) 教育相談に関わる今日的な話題や課題について研修を深め、教育相談に関わる担当者の資質の向上を図る。
- (2) 不登校や引きこもり傾向のある児童生徒、その保護者への対応やカウンセリングについて学ぶ。

○内容 講話 「不登校児童生徒への適切な支援のあり方

～医学的見地から子どもの育ちを考える～

講師 とちぎメディカルセンターしもつが 杉田 憲一 様

### 2 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉より)

○不登校の子で家から一步も出られない「ひきこもり」の子について一体どう支援したらいいのか悩みますが、先生の「一緒に悩みましょう」という言葉を支えに、これからも悩んで根気強く支援していきたいと思います。大変参考になりました。

○様々な発達障害の特性や注意すること、NGワードなどを細かく教えていただき、大いに日々の職務の参考になりました。発達障害について知識があまりなかったのですが、児童との関わりや先生方との情報共有に活かしていきたいと思います。

○医療的な立場から色々なお話が聞けて、とても参考になりました。質問事項にも細やかに対応してくださり、とてもありがたかったです。家族などの環境的因子がある場合は長い目でみての対応が必要だと分かったので、あせらずゆっくり対応していきたいと思います。

○発達障害について医学的に説明していただいたので、とても深い学びになりました。ニュースで目にした事件を具体的に取り上げ、発達障害が絡んでいるという話を聞くと、また違う見方もできると思いました。

○本校の児童も杉田先生にお世話になっており、保護者も杉田先生を信頼している様子から直接お話をうかがえることを楽しみにしておりました。発達神経症についても改めて勉強になりました。学校で良い子が不登校になる傾向が…とのお話に、見逃しがちな児童を今後注意して見守りたいと思いました。ありがとうございました。

○発達障害のある子で、服薬で調整したり支援体制を整えたりしてもなかなか改善しない状況がありますが、家庭に課題がある人はなかなか治りにくいというお話に納得できました。家庭の問題には学校で介入することは難しいため、SSWやSCと連携しながら進めたいと思います。

- 不登校児童生徒への治療の第一歩は生活リズムの改善ということで、保健室での基本的な生活習慣の確立の指導がとても大切だと、改めて思いました。今後も継続していきたいと思えます。
- 発達障害をもつ児童はどのクラスにもいて、その子の背景を知ることによって、支援の仕方は変わってくると思えます。多くの先生や保護者と一緒に一人一人に目をかけ、支援していく必要があると思えました。きっと私たち以上に家庭では分からないことがあると思うので、信頼関係を築きながら、協力していけるようにしていきたいです。
- 各種発達障害の説明をいただいたとき、生徒たちの顔が浮かびました。問題行動等の背景には、発達障害をはじめ愛着障害、解離性障害、虐待等が潜んでいることが改めて分かりました。
- 発達障害は併存していることが多く、環境によっても障害の現れ方は一人一人異なるので、それぞれに合った支援や対応を心がけていきたいです。また、家庭・学校・医療が連携していくことが重要だと再確認しました。質問にも丁寧に答えていただき大変ありがとうございました。
- 障害があるとその人の苦手なことや特徴があり、それを改善するというよりはフォローしてあげるといったイメージでした。障害も家庭環境や生活習慣が影響していると分かりました。児童をサポートする時は、その子の特徴だけでなく、周囲の環境にも目を向けていきたいです。
- 今日の杉田先生のお話をうかがい、学級には、障害を抱えていて、日々困り感をもって過ごしている児童がいるのではないだろうかと思直しました。どのような障害かを認知することで適切な支援に生かせることが分かり、少し心が軽くなりました。
- 医療の現場での対応を知ることができ、学校での指導に役立てられることがたくさんありました。夜尿やチックと発達神経症の関連も知ることができ、今後の観察や面談の際にも、心にとめて対応していきたいと思えます。
- 愛着障害と発達障害の行動が似ていることは、経験より痛感しているところでした。実際に同じ行動でも、どちらの要因が強いのかによって支援の方法が違ってきます。本日の研修でよく理解できました。ありがとうございました。
- 発達障害について、新たにチック症が含まれたことを本日の研修で知りました。障害に応じて本人の困り感がちがうことを念頭に置き、指導していく必要があることを改めて感じました。また、小さな頃から受けるストレスについても心にとめて、背景を探るということも学んだので、様々な要因を考えて、児童に接していきたいと思えます。
- 本日の講話は一つ一つがリアルでためになるお話を聞くことができました。通常クラスの教師にも役立つ内容なので、帰校した際には、校内で共有していきたいと思えます。困り感を抱えた生徒や保護者に寄り添えるよう努めていきたいです。



(杉田先生による講話)



(研修の様子)